

ポスター

[PB1～PB19] ポスター

2018年6月23日(土) 15:00～16:00 ポスター会場 (3階・中会議室302)

[PB11] 外用薬の用法指示における標準用法規格の運用の在り方

佐藤 弘康（JA北海道厚生連 帯広厚生病院）

外用薬の用法指示における 標準用法規格の運用の在り方

佐藤弘康^{*1}, 荒義昭^{*2}, 大庭理寛^{*3}, 岡橋孝侍^{*4}, 木津茂^{*5}, 木下元一^{*6}, 木村好伸^{*7},
柴崎淳^{*8}, 須鎌建^{*9}, 高田敦史^{*10}, 多喜和夫^{*11}, 野村浩子^{*12}, 舟橋由香子^{*13}, 山中理^{*14}

^{*1} JA 北海道厚生連帯広厚生病院, ^{*2} 国立病院機構東京医療センター,
^{*3} JA 神奈川厚生連伊勢原協同病院, ^{*4} 京都第二赤十字病院, ^{*5} 大津赤十字病院,
^{*6} 名古屋第二赤十字病院, ^{*7} 草加市立病院, ^{*8} 北里大学メディカルセンター,
^{*9} 成田赤十字病院, ^{*10} 九州大学病院, ^{*11} 日本赤十字社和歌山医療センター,
^{*12} 一般社団法人徳洲会大阪本部, ^{*13} 医療法人恒貴会協和中央病院,
^{*14} 市立大津市民病院

How to use coding of dosage instruction on the external medicine according to “Standard administration code of prescription and injection order”

Hiroyasu Sato^{*1}, Yoshiaki Ara^{*2}, Masahiro Ohba^{*3}, Koji Okahashi^{*4},
Shigeru Kizu^{*5}, Genichi Kinoshita^{*6}, Yoshinobu Kimura^{*7},
Atsushi Shibazaki^{*8}, Tatsuru Sugama^{*9}, Atsushi Takada^{*10}, Kazuo Taki^{*11},
Hiroko Nomura^{*12}, Yukako Funahashi^{*13}, Satoru Yamanaka^{*14}

^{*1} Obihiro Kosei General Hospital, ^{*2} National Hospital Organization Tokyo Medical Center, ^{*3} Isehara Kyodo Hospital, ^{*4} Japanese Red Cross Society Kyoto Daini Hospital, ^{*5} Otsu Red Cross Hospital, ^{*6} Japanese Red Cross Society Nagoya Daini Hospital, ^{*7} Soka municipal hospital, ^{*8} Kitasato University Medical Center, ^{*9} Japanese Red Cross Narita Hospital, ^{*10} Kyushu University Hospital, ^{*11} Japanese Red Cross Wakayama Medical Center, ^{*12} Osaka Headquarters, Tokushukai General Incorporated Association, ^{*13} Kyowa Central Hospital, ^{*14} Otsu City Hospital

抄録:「標準用法規格」は、処方オーダーの用法に標準コードを付与するためのものであり、今後の利活用が期待されている。しかしながら、各医療施設において現行設定されている用法マスタは標準化されていない。今回、外用薬の処方オーダーにおいて、どのような用法関連情報が「用法」あるいは「コメント」として指示されているのか多施設実態調査を行った。また、薬剤師を対象に外用薬の用法の在り方に関するアンケート調査を行った。その結果、処方時に指示される情報区分や属性は施設間で多様性が確認された。また、薬剤師アンケートにおいても、同様の多様性が確認された。標準用法規格によりコードの仕様は標準化されたものの、その有用性を最大限に発揮するためには運用側の標準化が必要と考えられる。

キーワード 標準用法規格、用法マスタ、外用薬、病院情報システム、処方オーダー

1. はじめに

2012年に日本医療情報学会が策定した「標準用法規格」(当初は「標準用法マスタ」)により、処方オーダーにおける用法に16桁の標準コードを付与可能となった。この標準用法規格は、今後、医療ビッグデータ解析や地域医療ネットワーク、電子処方箋等における利活用が期待されている。

一方、実際に病院において運用される用法マスタは標準化されておらず、施設間の多様性が報告されている。[1,2]特に外用薬は、さまざまな

用法関連情報が処方時に指示されることが多いが、どのような情報を「用法」としてマスタ設定し、何を任意コメントとするかは施設ごとの判断に委ねられており、その実態については明らかとなっていない。

今回、病院情報システムの処方オーダーにおいて、外用薬の用法関連情報としてどのようなものが「用法」あるいは「コメント」として指示されているのか多施設実態調査をおこなった。また、薬剤師はどのような情報を「用法」として指示されるべきと

考えているかについて、Web アンケートを実施したので報告する。

2. 方法

1) 外用薬のオーダにて指示されていた「用法」に関する多施設実態調査(オーダ調査)

「アンヒバ坐剤小児用 100mg」、「フランドルテープ 40mg」、「スピリーバ 2.5 μ g レスピマツト 60 吸入」、「デルモベート軟膏 0.05%」、「ヒアレイン点眼液 0.1%」、「グリセリン浣腸液」またはこれらの後発医薬品の 6 品目を対象とし、各協力施設における 2016 年 5 月 1 日から同年 12 月 31 日の新規処方について、処方オーダを後ろ向きに調査した。指示されていた用法関連情報を、「投与方法」、「1 日回数」、「1 回量」、「部位」、「タイミング」、「投与間隔」、「回数制限」の情報区分に分類し、これらの指示属性(「用法」か「コメント」か)を調査した。各協力施設における指示率を医薬品ごとに算出した。

2) 外用薬に指示される「用法」に関する Web アンケート調査(アンケート調査)

上記 6 品目の外用薬について、情報区分別に「用法」、「コメント」、「指示不要」のいずれに該当するかについて薬剤師を対象として 2018 年 1 月 22 日より 2 週間、Web アンケート調査を実施した。

3. 結果

1) オーダ調査

26 協力施設のデータを解析した結果、「投与方法」は「用法」属性として高い指示が確認された(85.0%; 6 品目の平均値)。また、定期使用外用薬の「1 日回数」についても高い指示率が認められた。一方、「1 回量」、「部位」等の区分は外用薬により、「用法」属性として指示されるもの、「コメント」として指示されるもの、ほとんど指示されないものに分けられた。

2) アンケート調査

58 名の薬剤師より回答が得られた。「投与方法」や「1 日回数」はいずれの外用薬においても、「用法」として指示されるべきとの回答が多かった。また、「投与間隔」や「回数制限」は多くの回答者が「コメント」として指示されるべきと回答した。坐薬、吸入薬、浣腸液における「部位」は、「指示不

要」との回答が半数を超えていた(それぞれ、53.4%、66.5%、58.6%)。

一方で、「投与方法」を「指示不要」とした回答も 2 割程度確認され、「用法」として指示すべき情報に関して、薬剤師間で差異が確認された。

4. 考察

本研究の結果、処方オーダにおける外用薬用法指示の実態、および薬剤師が考える外用薬用法の在り方に関して、施設間および薬剤師間で差異が存在することが明らかとなった。

各医薬品の情報区分において、指示用法の実態と薬剤師が考える用法の在り方については、多くが同様の傾向を示した。一方、点眼薬における「部位」は、ほとんどの薬剤師が「用法」として指示すべきと回答したが、実オーダでの指示率は低い等、乖離がみられた項目も存在した。

「投与方法」を指示不要と回答した薬剤師の施設では、多くの外用薬が一意で投与方法が決まるために、医師の負担軽減策の一環として、実際に「用法」に「投与方法」を含めていない可能性がある。しかしながら、標準用法規格において外用薬の「投与方法」は必須項目であり、これらの施設では標準コードの付与ができないことになる。

5. 結語

「コメント」として指示された情報は標準用法規格によるコーディングの対象外となるため、「用法」として指示する区分が施設ごとに異なる現状では、標準用法規格を最大限に活用することが困難である。医薬品ごとに「用法」として指示すべき区分を全国で標準化すべきであり、各施設の現行用法マスタをそのまま標準用法規格にマッピングして運用することは避けるべきと考える。

参考文献

- [1] 佐藤弘康, 中村裕一, 難波静奈, 他: 用法マスタの定義変更による用法指示の入力率の変化, 医療情報学連合大会論文集 35(Suppl.), 1262-1263, 2015.
- [2] 谷口美悠, 岡橋孝侍, 小野聡, 他: 施設で用いられる外用薬マスタと標準マスタの差異に関する調査, 医療情報学連合大会論文集 33(Suppl.), 804-807, 2013.